

授業科目名： 海外演習 A（東京農工大学）		単位数 1 単位	担当教員名： 教授・准教授・講師
			担当形態： 単独
配当年次： 1・2・3・4 年次前期・ 後期	授業形態： 演習科目		開講形態： 東京農工大学独自開講
授業のテーマ及び到達目標： 外国語によるプレゼンテーションの作成、実施及び質疑応答を通じて国際的に活躍する獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。			
授業の概要： 渡航期間が 1 週間程度の海外における国際学会等に参加し、発表することを通じて外国語によるプレゼンテーションを学び、国際的なコミュニケーション力を研鑽する。			
授業計画： 渡航期間が 3 日～7 日程度となる海外における国際学会に参加する。主指導教員の指導の下、外国語によるプレゼンテーションの作成、実施及び質疑応答を行い、これらを通じて国際的に活躍する獣医師としての基盤を形成する。 すなわち、主指導教員の指導の下、以下のことを学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語による学会発表要旨の作成と、学会参加の手続き ・ 外国語によるプレゼンテーション及び発表原稿の作成 ・ 外国語によるプレゼンテーションの実施と質疑応答 ・ 外国語による他者のプレゼンテーションに対する質疑応答 ・ 外国語による座長の進行 (打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (白井 淳資) 家畜伝染病、伝染病制御と消毒、病原体検出 (竹原 一明) バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (永田 典代) 人獣共通感染症、ウイルス、病原性因子、動物感染モデル、新興・再興感染症			

(藤川 浩)

食中毒、腐敗、予測モデル、リスク評価、食品安全

(町田 登)

不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化

(水谷 哲也)

家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症

(李 天成)

人獣共通感染症、バキュロウイルス発現系、疫学

(渡辺 元)

ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス、内分泌攪乱

(小山 哲史)

動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度

(佐々木 一昭)

薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療

(佐藤 俊幸)

至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動

(清水 美希)

運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物

(鈴木 和彦)

病理、疾患モデル、線維化、腎臓

(田中 知己)

繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜

(田中 綾)

医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術

(谷口 隆秀)

発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断

(永岡 謙太郎)

ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化

(西藤 公司)

皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素

(林谷 秀樹)

集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態

(福島 隆治)

心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物

(古谷 哲也)

動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御

(吉田 敏則)

脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血、がん

(石原 加奈子)

食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析

(井手 香織)

血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境

(大松 勉)

感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫

(大森 啓太郎)

免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬

(岸本 海織)

画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤

テキスト：特になし

参考書・参考資料等：特になし

学生に対する評価：プレゼンテーションの準備に関して抄録・スライド・発表原稿の内容に加え、発表内容の理解度、討論の学術的整合性を主指導教員が評価する。また、実際の海外における国際学会等での発表にあたっては、参加後のレポートを提出させる。以上のことを合わせて総合的に評価する。